

公開実用平成 2-118368

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-118368

⑤ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)9月21日

H 04 N 5/64
B 60 R 11/02
G 09 F 21/04
H 04 N 9/12

Z 7605-5C
C 8920-3D
A 6422-5C
7033-5C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭ 考案の名称 車載用テレビジョン受像機

⑮ 実 願 平1-26471

⑯ 出 願 平1(1989)3月8日

⑰ 考 案 者 菊 池 哲 夫 東京都練馬区光が丘5-5-6-904

⑱ 出 願 人 スタンレー電気株式会 東京都目黒区中目黒2丁目9番13号
社

⑲ 代 理 人 弁理士 秋元 輝雄

明 細 書

1. 考案の名称

車載用テレビジョン受像機

2. 実用新案登録請求の範囲

L C D 表示画面を有し、自動車の天井部に吊下げ状態で装着される車載用テレビジョン受像機において、前記 L C D 表示画面は表示面側を前記天井部に向けて収納可能とし、且つこの L C D 表示画面の背面側には E L ルームランプが一体構造として取付けられていることを特徴とする車載用テレビジョン受像機。

3. 考案の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本考案はテレビジョン受像機に関するものであり、特に車載用として適する構成に係る。

【従来の技術】

従来のこの種の車載用テレビジョン受像機 2 1 の例を示すものが第 3 図であり、表示画面 2 2 を略垂直と成るように自動車の天井部 1 0 から吊下

公開実用平成 2-118368

げ状態に取付け、主として後席の乗員の観視に供するものである。

【考案が解決しようとする課題】

前記構成とした従来のテレビジョン受像機21は、運転時の安全の確保の上から運転中の運転者からは観視出来ない位置に取付けることが奨励され、これにより前席（運転席および助手席）頭上あるいはそれよりも後部となる天井部10に取付けられるものとなる。

しかしながら、上記に対応する最も好ましい位置となる天井部10の中央部にはルームランプが取付けられているのが通常であるので、これを避けると必然的に運転席乗員あるいは助手席乗員の頭部の近傍に取付けられるものとなり、前席（運転席および助手席）乗員に対して少なからぬ圧迫感など不快感を生じさせると云う問題点を生ずるものとなり、この点の解決が課題とされるものであった。

【課題を解決するための手段】

本考案は前記した従来の車載用テレビジョン受

像機に生ずる課題を解決するための具体的手段として、LCD表示画面を有し、自動車の天井部に吊下げ状態で装着される車載用テレビジョン受像機において、前記LCD表示画面は表示面側を前記天井部に向けて収納可能とし、且つこのLCD表示画面の背面側にはELルームランプが一体構造として取付けられていることを特徴とする車載用テレビジョン受像機を提供することで、取付位置の自由度を広くして、前記従来の課題を解決するものである。

【実施例】

つぎに、本考案を図に示す一実施例に基づいて詳細に説明する。

第1図、第2図に符号1で示すものは車載用テレビジョン受像機（以下に受像機と略称する）であり、この受像機1はLCD（液晶）表示画面2を有し、このLCD表示画面2の表示面2aが後席側に向かうように自動車の天井部10から吊下げ状態で取付けられるものであることは従来例のものと同様であるが、本考案により前記LCD表

公開実用平成 2-118368

示画面 2 は、天井部に直接に固定される本体部 3 との間に動作範囲の両端側にロック機能を有する蝶番機構など適宜な開閉機構が設けられ、観視時には前記 LCD 表示画面 2 が天井部 10 から略垂直な観視位置（第 1 図参照）と、観視不要時には前記 LCD 表示画面 2 が表示面 2 a 側を天井面 10 に向けた状態でこの天井面 10 と平行となる収納位置（第 2 図参照）とに設定可能なものとされている。

同時に、前記 LCD 表示画面 2 の背面 2 b 側には、自動車ドアの開閉、即ちドアスイッチ（図示は省略する）と連動する DOOR ポジションと、常時点灯する ON ポジションと、常時消灯する OFF ポジションの 3 ポジションスイッチ 4 a が付設された EL（エレクトロルミネッセンス）ルームランプ 4 が一体構造となるように取付けられている。

上記構成とした受像機 1 を自動車の天井部 10 に取付けるときには、先ず本来この自動車に設けられていたルームランプを撤去し、その撤去した

位置に受像機1を取付けるものであり、このとき同時に、当該位置に敷設されているルームランプ用配線を受像機1に併設されたELルームランプ4に接続させる。

以上のようにして取付けられた受像機1は自動車の天井部10の略中央に位置するものとなり、第1図に示す観視位置としたときには後席の乗員に対してのみテレビ映像を観視可能とするものとなり、第2図に示す収納位置としたときには車室全体に対しての照明効果を有するルームランプとして作用するものとなる。

尚、前記した観視位置としたときにおいても、例えばドアが開閉されたときには前記ELルームランプ4は点灯するものであり、その機能を全くに停止するものではない。

また、第1図中に符号5で示すものは、前記本体部3内に組込まれ、白熱電球を光源とし例えばスポット状の配光特性を有するマップランプであり、観視位置としたときにも照明が要求される場合などには必要に応じて設けることが自在なもの

公開実用平成 2-118368

である。

【考案の効果】

以上に説明したように本考案により、LCD表示画面は表示面側を前記天井部に向けて収納可能とし、且つこのLCD表示画面の背面側にはELルームランプが一体構造として取付けられている構成としたことで、本考案の車載用テレビジョン受像機はルームランプの作用を兼ねるものとなり、従来のルームランプが設けられている理想的な取付位置に前記従来のルームランプに替えて、この車載用テレビジョン受像機を取付けることを可能とし、前席即ち運転席と助手席との中間に位置させることを可能とし、前席乗員に圧迫感など不快感を与えることを無くすると云う優れた効果を奏するものであり、併せてLCD表示画面とELルームランプとを組合わせたことで全体を薄形化し、収納位置としたときに過大に車室内に突出するのを防止し、車室の有効容積を減ずることが無いと云う効果も奏するものである。

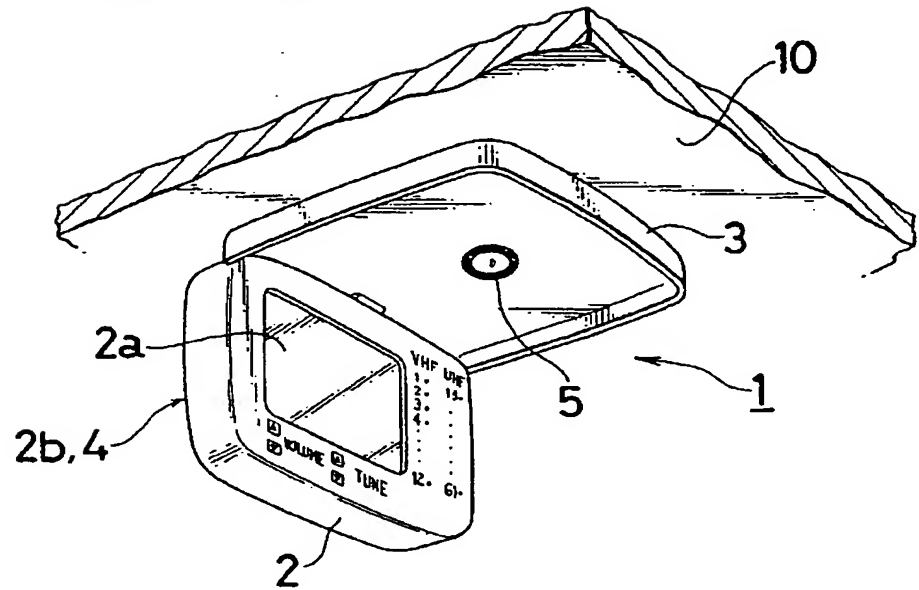
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る車載用テレビジョン受像機の一実施例を観視状態で示す斜視図、第2図は同じ実施例を収納状態で示す斜視図、第3図は従来例を示す斜視図である。

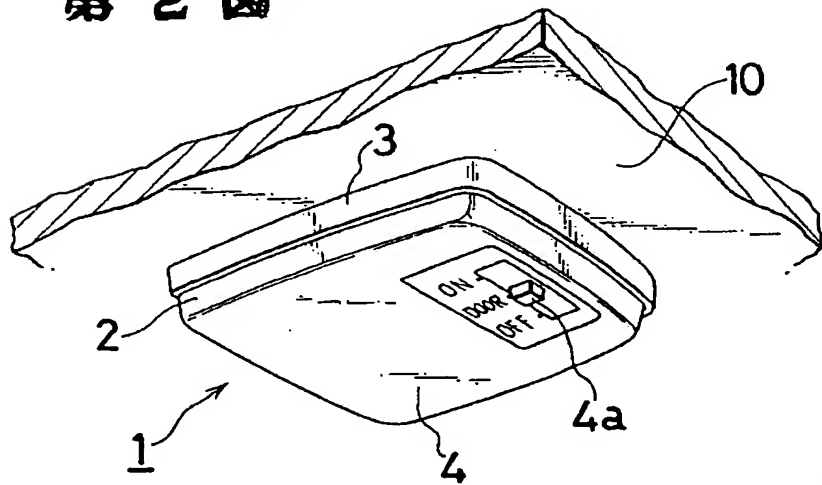
- 1・・・車載用テレビジョン受像機
- 2・・・LCD表示画面
 - 2a・・・表示面
 - 2b・・・背面
- 3・・・本体部
- 4・・・ELルームランプ
 - 4a・・・3ポジションスイッチ
- 5・・・マップランプ
- 10・・・天井部

公開実用平成 2-118368

第 1 図



第 2 図

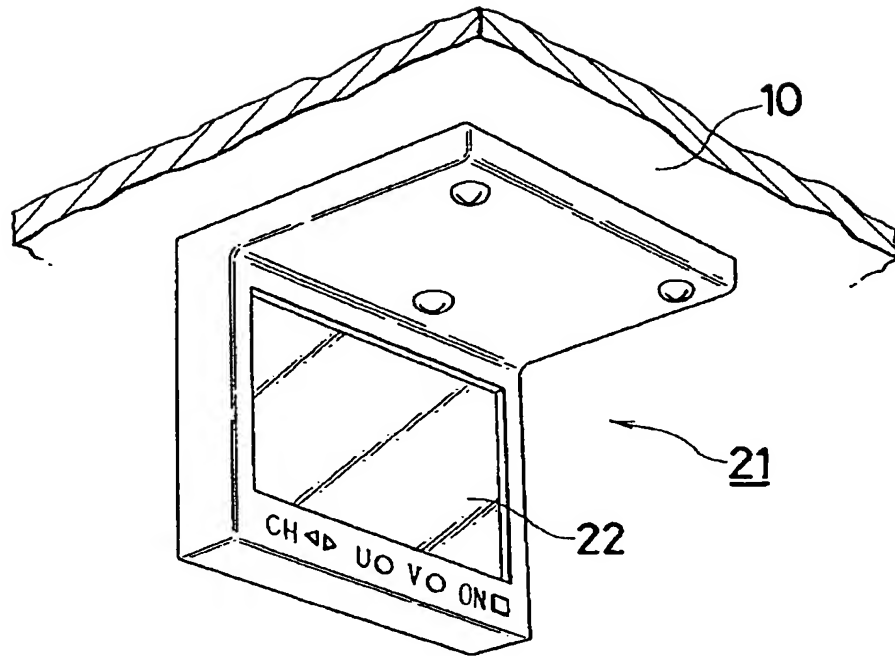


861

実開2-1183

代理人 秋元輝雄 外1名

第 3 図



862

実開2-118368

代理人 秋元 輝 雄
外1名